

# TRAIL-RUNNING FORUM2017

## 登壇者 & 講師プロフィール

### 午前の部

#### ● 鏑木 毅（かぶらき・つよし） / 日本トレイルランナーズ協会会長

プロトレイルランナー。2009年「ウルトラトレイル・デュ・モンブラン（通称 UTMB、走距離 166km）」3位、「ウエスタステイツ 100 マイルズ」で準優勝など、世界レベルのトレイルランニングレースで常に上位入賞を果たす。「ウルトラトレイル・マウントフジ（UTMF）」の大会実行委員長を務めるほか、「神流マウンテンラン&ウォーク」などの国内レースをプロデュース。2011年観光庁スポーツ観光マイスター、2014年東京都自然公園ルール策定委員会委員、2015年 ITRA（国際トレイルランニング協会）理事就任。

#### ● 福田 六花（ふくだ・りっか） / 日本トレイルランナーズ協会常務理事

シンガー&ランニング・ドクター。アールビーズスポーツ財団理事、富士トレイルランナーズ倶楽部理事。外科医時代に暴飲暴食で93キロまで体重を増やすも、1996年より走り始め、30キロ以上のダイエットに成功。2002年、富士山麓（河口湖）に移住し、現在は地域医療のかたわら、「UTMF」を始め様々なレースのプロデュース&運営を行う。専門誌や新聞にランニングエッセイ執筆多数。<関連レース>「UTMF」「富士山麓トレイルラン」「富士山原始林トレイルラン」「南魚沼グルメマラソン」「九州脊梁山脈トレイルレース」「若狭路トレイルラン」「北丹沢 12 時間山岳耐久レース」「道志村トレイルレース」ほか。

#### ● 大塚 浩司（おおつか・こうじ） / 日本トレイルランナーズ協会理事

株式会社ネイチャーシーン代表取締役、NPO法人北信濃トレイルフリークス代表。自身もトレイルランナー、トライアスリート。トレイルランニングのレースをエンターテイメントとしてとらえ、会場、距離、コース、規則、スタート時刻、パーティーなどなど、独自のスタイルで開催している。

#### ● 小山田 隆二（おやまだ・りゅうじ）

学生時代から40歳手前までサッカーを中心に生活し、山には無縁の生活だったが、引退後、偶然見た雑誌をきっかけにトレイルランニングに出会う。現在は今はどんな形でも一生のうちに100mileを1本でも多く走ることを目標として、山梨の里山を走り、自身のトレイルランニングライフだけでなく、ローカルエリアの魅力を発信している。「道がまっすぐ」店長。「スリーピークスハケ岳トレイル」コースディレクター。Boomerung trailholic代表。

#### ● 高木 智史（たかきさとし） / 日本トレイルランナーズ協会理事

宮崎県宮崎市在住。有限会社ユニバーサルフィールドを2012年に設立し、九州各地にてトレイルランニングなどのスポーツイベントの企画、運営を行う。2013年よりTRAQ（九州トレイルランニング協会）を設立し、九州でのトレイルランニングの普及活動も行っている。

### ●内坂庸夫（うちさか・つねお） / 日本トレイルランナーズ協会理事

雑誌編集者・トレイルランナー。数多くの運動選手、コーチ、医者、科学者に取材し、最新最良な運動科学とフィットネスを誌面で提供している。2005年から「ターザン」でトレイルランニングの連載を開始、近年は「UTMB」「UTMF」に代表される超長距離走のトレーニング科学の解説を得意とする。心肺機能調整、代謝機能改善、エネルギー・水分の補給、装備、サポート心理学など、多くをモンブランと「アイアンマン・トライアスロン」、そしてフィリップ・マフェトン博士に学ぶ。

### ●望月将悟（もちづき・しょうご） <ビデオメッセージ>

トレイルランナー。静岡市消防局勤務、消防士・山岳救助隊員。超長距離、標高差累積の大きなレースを得意とする。2011年初出場「トルデジアン/330km」13位。隔年で開催される日本縦断（富山湾から駿河湾へ）レース、総距離415km以上、標高差累積2万6,000m以上の「トランスジャパンアルプスレース（TJAR）」に2010年、12年、14年、16年と4連覇。

### ●山本健一（やまもと・けんいち） <ビデオメッセージ>

トレイルランナー。山梨県立北杜高校体育教師、スキー部顧問。超長距離、標高差累積の大きなレースを得意とする。2009年初出場「UTMB」8位をかわきりに、欧州の超長距離レースで活躍。11年「UTMB」10位、12年「グランレイド・デ・ピレネー/100マイル」優勝、13年「アンドラ・ウルトラトレイル/170km」2位、2015年「レシャップベル/144km」2位、2016年「アンドラ・ウルトラトレイル/100マイル」2位。

### ●一般社団法人 日本スカイランニング協会（JSA）

スカイランニングは、山岳や超高層ビルを駆け登る（駆け下る）スピードを競う国際的なスポーツ。そのスカイランニングを日本各地において“地域スポーツ” “生涯スポーツ” “一流スポーツ”として根付かせることを目的に、2013年に発足した競技団体。

#### <2016 ユース世界選手権 日本代表選手>

上田瑠偉（うえだ・るい）、藤 飛翔（ふじ・つばさ）、吉野大和（よしの・やまと）  
名取将大（なとり・まさひろ）、鈴木龍哉（すずき・りゅうや）、菊川恵大（きくがわ・けいた）

### ●石川弘樹（いしかわ・ひろき） / 日本トレイルランナーズ協会副会長

プロトレイルランナー。国内外のトレイルランレースに参戦するほか、日本でトレイルランニングの普及にいち早く着手し、尽力してきた開拓者。「斑尾フォレストトレイルズ 50km」「信越五岳トレイルランニングレース」「北九州・平尾台トレイルランニングレース」など、国内各地で数多くのレースプロデュースを行いながら、走るための魅力的なトレイルを求めて世界各地のフィールドを旅する。

●上田瑠偉（うえだ・るい）

長野県大町市生まれ。佐久長聖高校、早稲田大学を経て、コロンビアスポーツウェアジャパンにアスリート兼社員として就職。主な戦績は、2014年「日本山岳耐久レース」をコースレコードで優勝、2016年「ゴージ・ウォーター・フォールズ 100k」優勝、「スカイレース世界選手権コンバインド」準優勝、「同U-23」優勝、「ウルトラトレイル・デュ・モンブラン GOC」準優勝など。

●鍋木毅 ※前出

●奥宮俊祐（おくのみや・しゅんすけ） / 日本トレイルランナーズ協会理事

中学生から陸上部で長距離を始め、大学では箱根駅伝を走れず挫折を経験する。26歳の時に不整脈の手術を受け、その年13回「日本山岳耐久レース（ハセツネ）」に初挑戦3位。10回目の挑戦となる23回「ハセツネ」で初優勝。2015年にFunTrailsを立ち上げトレイルランの楽しさを広げている。

●渡邊千春（わたなべ・ちはる） / 日本トレイルランナーズ協会理事

福島県出身。外資系企業財務部門勤務。香港に駐在していた2000年前後からトレイルランニングを始める。2008年「OSJ第一回トレイルランニングシリーズ」レースチャンピオン。2009年から毎年海外のウルトラトレイルレース出場。2014年「グランレイド・レユニオン」56位。

●芥田晃志（あくた・こうじ）

国内外で活躍するトレイルランナーやウルトラマラソンのTOP選手のアドバイザー&トレーナー。信越五岳&UTMF公認トレーナーの経験を元に独自の簡単で効果的なニューハレテーピングシステムを考案。現場ですぐに役立つテーピング方法を伝授。

●田中正人（たなか・まさと） / 日本トレイルランナーズ協会常務理事

アドベンチャーレーサー。みなかみ町を拠点にチームイーストウインドを立ち上げ、20年以上の間、数多くの国内外レースに参戦、日本における第一人者となる。日本海から太平洋まで415kmの道のりを踏破する『トランスジャパンアルプスレース（TJAR）』の副実行委員長も務める。

●内坂庸夫 ※前出

●松井裕美（まつい・ゆみ） / 日本トレイルランナーズ協会常務理事

スリーピークスハケ岳トレイルの言い出しっぺで事務局長。1児の母。運動には無縁の生活をしてきたが、トレイルランニングとの出会いをきっかけに、登山、キャンプ等山遊びを始め、現在も山の総合力を上げるために勉強中。現在山梨県甲府市にあるアウトドアショップ「SUNDAY」「道がまっすぐ」のスタッフとして勤務。

## ●村井絢子（むらい・あやこ）

北海道生まれ。お絵描き好きな文化系出身。学生時代にアルペンスキーに出会い、競技スキーに取り組む。美術系の大学院卒業後ゴールドウインに入社、2009年よりTHE NORTH FACEアパレルの企画に携わり、1年間のアメリカ生活を経て、2016年春よりC3fitの企画チームに所属。仕事をきっかけに出会ったトレイルランニングにのめり込み、これまでに国内外含め100レース以上を完走。